

令和5年度 第1回 公益財団法人佐賀市文化振興財団第三者評価委員会 議事録

開催日	令和5年7月19日（水）	
開催時間	14時00分～16時	
開催場所	佐賀市役所5-1会議室	
出席者	委員	富吉委員長、石丸副委員長、多良委員、 納富委員、松本委員、園田委員
	公益財団法人佐賀市文化振興財団	梅崎常務理事、宮崎事務局長、福地管理課長、 木塚事業課長、河原東与賀文化ホール課長
	事務局	筒井地域振興部長、大野地域振興部副部長、 小林歴史・文化課長、野田副課長、武藤副課長、小副川主査
議事	・議事 1) 自己評価（文化振興財団） 2) 質疑応答 3) 採点 4) 集計 5) 総合評価・意見交換	
欠席委員	重松委員、福成委員	
傍聴者	なし	
報道関係者	なし	

【会議の公開・非公開】

○事務局

佐賀市では審議会や委員会等は、個人や団体の不利益になる場合や、会議の運営に支障が出る場合を除き、原則公開としている。公開と決定されれば会議の傍聴を認め、会議録の要約を市のホームページで公開させていただく。異議がなければ、原則どおり公開とさせていただきたいが、よろしいか。

○委員

（はい）

◎ （1）自己評価（文化振興財団）

○財団

1) 概要について

- ・令和4年度は、文化会館において中止が28件、日程変更が2件、予定利用料金が約597万円減、予定入場者数が約15,000人の減。東与賀文化ホールにおいて中止が5件、日程変更が1件、予定利用料金が約17万円減、予定入場者数が約1,300人の減となった。2館の合計では、予定利用料金が約614万円減、予定入場者数が約16,300人の減少となった。
- ・文化会館は、目標入場者数15,000人に対し実績が26,800人で目標の178.67%となった。
- ・東与賀文化ホールは、目標入場者数3,400人に対し実績が3,322人となっており、目標の約

97.71%となった。

- ・文化会館では事業数、入場者数ともコロナ以前と同等に回復した結果となった。
- ・第10回佐賀市民芸術祭について、昨年もコロナの影響で、11月12日・13日の2日間に縮小して開催した。第10回の入場者数は3,145人（R3：2,763人、R2：3,112人、R1：12,900人、H30：12,800人）。
- ・第10回佐賀市民芸術祭も「新型コロナ対策」の一環として「動画配信」を行った。内、同時視聴者数は、379人であった。

2) 施設管理に関すること

- ・施設の利用者数と稼働率について、東与賀文化ホールの稼働率は目標を達成した。文化会館稼働率が89%の達成度に回復していながら利用者数が伸びなかったのは、主催者による定員の自主的な制限を行った事によるものと考えられる。
- ・防災訓練では、地震防災避難訓練を実施した。公演中止の指示、避難路の安全確認、残留者確認など手順と動作を確認して、利用者の安全確保に努めた。
- ・文化会館の利用の呼びかけについては、テレビ、ラジオ、新聞広告による宣伝広告や会館情報誌をはじめとする誌面への掲載、フェイスブックやラインといったSNS、ホームページなどのインターネットを利用して広く情報提供を行った。

3) 文化事業に関すること

- ・自主事業について、文化会館は主催事業21企画26公演、体験活動事業3企画6公演、6企画10ヶ所12回のアウトリーチを実施した。
- ・自主事業について、東与賀文化ホールは主催事業11企画13公演、体験活動事業2企画4公演、1企画3ヶ所4回のアウトリーチを実施した。
- ・東与賀文化ホール文化事業の入場者数のみ目標に届かなかった。文化会館文化事業の入場者数は目標を1万人以上超えて、コロナ以前と比較しても過去最高の数値となった。大ホールの事業数が14企画18公演であった事で大きく入場者数が伸びたと考えられる。
- ・本格的なクラシックを身近で鑑賞することができるアウトリーチ事業について、児童の興味を引くプログラムを多く取入れ、演奏家自らの解説なども行った。訪問先は小中学校だけではなく、児童館、子育て支援センター、老人福祉センター、がん総合支援センターなど様々な施設を対象とした。
- ・佐賀県、佐賀市出身の演奏家によるコンサートやワークショップを実施した。特に、ワークショップは和太鼓、竹楽器、篠笛など普段は触れる機会の少ない楽器を演奏し、音を出せる楽しさとプロの演奏の難しさを感じる事が出来る内容で実施した。

4) 財務に関すること

- ・東与賀文化ホールは、利用料金と稼働率について共に目標を達成した。文化会館利用料金は目標に対して約1,390万円少なく、87.73%の達成率となった。文化会館指定管理料は電気ガス料金の高騰による光熱費増加分として、1,000万円の増額となった。

- ・オフィシャルパートナーについては、昨年より2社増えて13社となった。
- ・文化会館は文化庁からは文化芸術振興費補助金(AFF2)1,170万円と子供たちの伝統文化の体験事業補助金150万円の交付を受けることができた。東与賀文化ホールは(一財)地域創造から公共ホール音楽活性化支援事業助成金50万円の交付を受け事業を実施した。
- ・燃料費の高騰により光熱水費は予算を1,700万円ほど超過した。しかし使用量で比較すると堅調であった平成29年のマイナス1ヶ月分となっており、デマンドによる管理が確実に実施できている。

◎ (2) 質疑応答

○委員

SAGA サンライズパークとの供用が始まった駐車場の運営について、困っていることなどはないか。

○財団

アリーナのイベントについては、徒歩や公共交通機関の利用を徹底して呼びかけられており、文化会館の駐車場まで一杯になった、という状況はない。呼びかけに応じて、徒歩等の利用が多いと感じる。ただし、駅周辺の混乱と、周辺の商業施設への迷惑駐車の問題があると聞いている。駐車場がもっと欲しい、という声もあるが、現状では大きな混乱はない。

○委員

第三者評価委員会の役割と、佐賀市文化振興財団の役割をもう一度整理させてほしい。佐賀市は文化振興に関し総合計画を策定されていると思うが、その中での財団の位置づけはどうなっているのか。財団の役割が文化会館と東与賀文化ホールの施設管理だけなのか、佐賀市の文化振興の拠点となっていく役割を担っているのか。

○事務局

佐賀市は文化振興基本計画を策定しており、文化会館・東与賀文化ホールは芸術・文化の拠点として位置付けている。財団についても、施設の管理とあわせて自主文化事業をはじめとする様々な活動により、芸術・文化の発展に寄与してもらっている。

○委員

文化振興財団という名前から、広く佐賀市全体の芸術・文化の振興にかかわるべきではないのか。唐津では曳山展示場や新唐津市民会館を文化の拠点として活用していきたい、とされているが、中心部だけの取り組みにしかになっていない。佐賀でも富士や三瀬などの過疎地があるが、そのような場所にも芸術・文化を浸透させていくことが財団の役割としてあるのではないのか。そこを確認したい。

○財団

市の文化振興の計画に、財団がどこまでかかわるのかというのは難しい問題だ。ユニークベニューのような、観光の視点まで含めた多角的な取り組みについては、市と綿密に協議を行っていく必要がある。財団として、文化の振興には「ひとづくり」「まちづくり」という視点から、アウトリーチや地域の団体との連携を密にして取り組んでいるつもりだが、今の財団の規模でどこまでやれるのか、日々悩んでいる。「ひとづくり」「まちづくり」には何が必要かということ、市の計画に基づき、財団として考えているが、まずは拠点となる会館の運営を確実にやり、利益も確保しなければならない。アリーナが完成し、国スポも来年に控えている。環境が大きく変わる中で、財団がどこまでできるか

は、市と連携しながら対応していきたい。

○委員

財団は指定管理者として、市の方針に基づき会館を運営していく義務があるが、その中で、できることできないことはあると思う。財団がその指定管理者としての責任を果たしているか、それを客観的に評価するのが第三者評価委員会の役割ではないか。

○委員

指定管理者であれば、市から詳細な仕様書が提示されており、それに基づいて財団は業務を行うことになる。よって第三者評価委員会は、市から委託された内容が適切に実施されているかを評価するのが役割だと思う。加えて、文化会館の指定管理は非公募となっていて、それは財団にしかできないと判断される理由があるからだ。自分はその視点で評価を行っている。

○委員

自分は文化のことについて詳しくはないが、評価のために示された資料におかしいところがないか、矛盾や間違いはないか、そういったことは指摘できる。文化・芸術については分からないことも多いが、委員会で他の委員の意見を聞きながら、自分も勉強になっている。

○委員

評価委員は、まず施設管理がきちんと行われているかどうかを判断するのが基本だと思う。それに加えて、文化振興のための事業について、予算の中で適切に行われているかどうかを評価するものと認識している。限られた予算と人員の中で、アウトリーチにとどまらず、既存の施設を有効活用するなど、地域に芸術・文化の拠点を作っていくような取り組みができればいいのではないか。新たな視点や手法を取り入れるためにも、委員会での意見交換は有意義だと思う。

○委員長

委員の物差しはそれぞれ違うが、その違う物差しで評価して問題はない。その結果については、またみんなで考えていけばよい。

○委員

入場者数が178%ほど伸びているが、収入が伸び悩んだ理由は何か。中ホールが使えなかったことが影響しているのか。

○財団

自主事業に関しては、大ホールのイベントをかなり実施したので、入場者数の増加につながった。収入については、中ホールの工事も影響していると思うが、イベントホールでこれまで多く行われていた展示会が昨年度は少なかった。400万から500万ほどはイベントホールによる収益がなく、それが影響している。

○委員

自主文化事業のプログラムの内容はどうやって決めているのか。

○財団

年間で、ジャンルによって枠を決めている。具体的には観客アンケートなどを参考にしながら、予算と相談しながら決めている。

○委員

広域で、文化施設が連携して共同の事業を行うことができれば、予算が少なくとも人気のあるアー

ティストなどと呼べるのではないか。実際に九州でも事例がある。

○財団

趣旨は理解するが、商圏が被ると観客の奪い合いになるなど、課題もある。検討はしていきたい。自主文化事業のプログラムの決め方については、アーティスト側からの売り込みもあるし、こちらから直接交渉に行くこともある。クラシックは年間計画として、中ホールで3本、大ホールで2～3本を基本としている。子供向けは1本、落語を1本など、バランスを見て考えている。

○委員

海援隊のコンサートは補助金があったのか。

○財団

補助金ではなく、会員への特典としてチケットを安く提供した。

○委員

アリーナのイベントについて、例えば閉会式だけなど、一部のプログラムのみ文化会館を利用するような申入れが今後増えるかもしれない。対応について考えはあるか。

○財団

文化会館としては駐車場の確保のために施設の予約だけさせてほしい、などの申込は受けない。利用の申込があった場合は、これまで通り内容を精査し、そのつど判断していく。それはアリーナに関するイベントも同じである。

○委員長

アリーナとの連携は大事だが、まずは文化会館としての運用を第一に考えてほしい。また、光熱費の高騰が著しいが、文化会館の電力などの契約状況は。

○財団

本庁と同じく、荏原環境プラントと契約している。ガスは佐賀ガスとの契約である。

○委員

収益事業と公益事業の考え方は。

○財団

認可を受けるにあたって、文化振興に直接かかわるものについては公益事業として認めてほしい、と説明している。ホールを使った演劇や音楽などは公益事業。内容が文化・芸術的なものでも、講演会は収益事業。年間で60%～70%が公益事業で、50%に近づくことはほぼない。文化会館は音楽に特化したホールなので、やはり音楽にかかわる利用が多い。学会などの利用は収益事業となる。決算時に、どのイベントが公益事業なのか収益事業なのかを判断し、最終的に県に報告している。

◎ (3) 採点、(4) 集計、(5) 総合評価・意見交換

特に意見無し

◎自己評価（文化振興財団）

《 公益財団法人 佐賀市文化振興財団 自己評価表 》 公益財団法人 佐賀市文化振興財団 令和4年度実績

◎判定の基準
 【A】高い成果を収めている 【B】概ね良好な成果を収めている 【C】向上の余地がある。【D】見直しが必要である 【E】抜本的な見直しが必要である

評価項目	評価資料Ⅱ	自己評価	コメント(評価の理由等)
1) 施設管理に関すること			
① 必要な保守点検、修繕、管理を行い、施設・設備の機能維持と利用者の安全確保に努めているか。	P19～21, 26～28	B	適切な保守点検、修繕を実施し、利用者の安全確保に努めた。駐車場改修工事期間中は、車輛と歩行者動線に留意して来場者の安全を図った。工事期間中の駐車場不足については、サンライズパーク内の利用可能な駐車場や周辺の臨時駐車場を手配して対応した。令和4年度の防災訓練では地震防災避難訓練を実施し、地震発生時の公演中止、避難路の安全確認、残留者確認など手順と動作を確認した。
② 利用者目線で運営することを意識し、利用しやすい施設となるよう改善を図ることで、利用者の満足度が高いサービスを提供し、稼働率、利用者数を増加させることができたか。	P1～7		新型コロナウイルスによる中止は文化会館で28件、東与賀文化ホールで5件であった。キャンセルは昨年より減少したが、主催者の判断で入場者を制限する利用が続いた事もあって文化会館の入場者数は目標の65%であった。東与賀文化ホールの入場者数も回復しているが、目標には届いていない。東与賀文化ホールの稼働率は目標に達しているが、文化会館は届いていない。
③ ホームページ、広報誌をはじめ様々なメディアを通し、広く施設及び事業の情報提供を行うことができたか。	P24		感染症対策ガイドラインの周知は継続しながら、公演の実施も積極的に広報を行った。テレビ、ラジオ、新聞といったメディア媒体上での宣伝広告、会館情報誌、市報、タウン誌への公演情報の掲載などジャンルや年齢層に合わせた広報を行った。フェイスブックやラインといったSNS、地域、旅行、イベントなどのフリーサイト、ホームページ以外のインターネット上の広報も行った。
2) 文化事業に関すること			
④ 文化事業の入場者数を増やし、文化に親しむ市民層の拡大に貢献することができたか。	P8～16	A	文化会館では体験活動事業3企画6公演、アウトリーチ企画10ヶ所12公演、主催事業21企画26公演を実施し26,800人の入場者があった。東与賀文化ホールでは体験活動事業2企画4公演、アウトリーチ企画3ヶ所4公演、主催事業11企画13公演を実施し3,322人の入場者があった。東与賀文化ホールの文化振興事業はわずかに目標にとどかなかったが、文化会館は目標を1万人超える入場者となり多くの市民へ文化に接する機会を提供できた。
⑤ 地域の文化サークルの作品展示、文化祭等の地域特性を活かしたイベントの開催支援や、福祉施設などでの芸術文化に触れる機会の提供を通して文化振興を図ることができたか。	P8～16		児童養護施設の児童生徒と職員をクラシックコンサートに招待し鑑賞する機会を提供した。児童館、子育て支援センター、老人福祉センターなど地域コミュニティでアウトリーチを行った。東与賀文化ホールでは高等学校文化連盟演劇専門部との共催で高校演劇祭を行った。
⑥ 将来の文化を担う子ども・青少年を育成する、鑑賞・体験事業を実施できたか。	P8～16		文化会館と東与賀文化ホールとも、市内小学校において児童の興味を引くプログラムを取り入れたアウトリーチを実施し、本格的なクラシック音楽を身近で鑑賞する機会を提供を行った。ワークショップでは和太鼓、竹楽器、篠笛といった触れる機会の少ない楽器の体験演奏を行い、東与賀文化ホールではダンスによるコミュニケーションや身体表現を体験できるワークショップを行った。
⑦ 地元出身芸術家の起用、市民参加型のイベントの企画、発想の転換による新しい企画を打ち出すこと等により、地域文化の活性化を図ることができたか。	P8～16		文化会館では佐賀県出身の篠笛奏者の公演において、ワークショップとコンサートを合わせて実施し、児童生徒へ邦楽への興味を深める事業を行った。東与賀文化ホールでは、津軽三味線の公演で佐賀市で活動する津軽三味線奏者と共演する企画を行った。また、佐賀市の演奏家により、小中学校、児童館、子育て支援センター、がん総合支援センターなど色々な施設でのアウトリーチを行った。
3) 財務に関すること			
⑧ 市内企業からの協賛金、国や関連団体等による助成金等を積極的に獲得し、事業に活用することができたか。	P19, 22, 23	B	オフィシャルパートナー企業は13社で計375万円の支援を得る事ができた。文化会館は文化庁の文化芸術振興費補助金(AFF2)1,170万円と子供たちの伝統文化の体験事業補助金150万円の交付を受ける事ができた。東与賀文化ホールは(一財)地域創造の公共ホール音楽活性化支援事業助成金50万円の交付を受け事業を行った。
⑨ 積極的な情報提供やセールスにより、文化事業の入場者数、稼働率の向上に努め、文化事業収入、利用料金収入を増加することができたか。	P1, 8～18		東与賀文化ホールの利用料金収入は目標に達しているが、文化会館は達してなかった。稼働率は両館とも目標に届かなかった。文化事業については、文化会館の入場者数は目標を1万人超過して達成したが、東与賀文化ホールは目標にわずかに届かなかった。
⑩ 経費の削減を図り、経営の効率を高めることができたか。	P11～21		令和4年度後半の燃料費高騰により文化会館の光熱費は、予算より約1700万円超過した。しかし、電気使用量で比較すると堅調であった平成29年より約一月分ほど少ない数値となっており、デマンドによる使用量管理が確実に実施出来た。
前回の委員会「R4年度の課題」		課題への対応状況	
自己評価(総合)	①若年層へのPR、周知による入場者の確保、友の会会員の確保	①学生料金を積極的に設定し児童・生徒と保護者や祖父母に含む三世代で関心を持ってもらえる環境づくりを努めた。友の会会員を対象とした優待企画を実施し、新規会員の獲得や現会員の継続に努めた。	
	②オフィシャルパートナー企業の確保	②令和4年度は、オフィシャルパートナー企業が新たに2社加わり、合計13社からの民間支援を受けている。(合計375万円)文化事業への協賛を通して地域文化の振興に貢献して頂いていることを積極的に発信し、あらたな企業へアプローチを行いたい。	
	③文化庁補助金の活用など、会館の収支改善。	③文化会館は文化庁の「文化芸術振興費補助金(AFF2)」、「子供たちの伝統文化体験事業」の補助金総額1,320万円を活用した。東与賀文化ホールは元総務省所管である(一財)地域創造の「公共ホール音楽活性化支援事業」の補助金50万円を活用した。	
	④令和5年度からのSAGAアリーナの利用開始に向けた連携及び調整。 ⑤両施設の利用者と駐車場の共有連携をとり、来場者の利便性と負担軽減に努めてほしい。	④、⑤文化会館とSAGAサンライズパークの行事予定を双方で共有して、混雑予想、駐車場の利用予定を把握する連絡体制を整える。競技場、水泳場、体育館等のスポーツ施設の行事と重なった場合は、文化会館の行事が開演するまでは警備員を配置して来場者の駐車を優先する対応を行う。	
	⑥駐車場有料化に伴う様々な顧客の声をケースとしてとらえ、拾うこと。 ⑦来場者の駐車場の案内。(市外、県外から車を利用して来る人のためにも分かりやすい案内をしてほしい。)	⑥、⑦ホール関係者用駐車場の取扱方法や、主催者、練習利用者の駐車料金割引を行う予定である。駐車場機器や操作のトラブルへの人的な対応と、注意事項の貼付や図解による操作説明の表示を行う予定である。財団の広報媒体(新風、HP、FB、LINE、MOTEMOTEさか)では、従来より繰り返し駐車場に関する広報を行っている。SAGAサンライズパークが管理するアプリを利用してホームページやアプリによる駐車場案内を稼働させる予定。	
⑧「満足度の高いサービス」、「質の高い」等の漠然とした目標、評価項目に対し、具体的な取り組み事例等を明らかにしてほしい。	⑧自主文化事業・文化振興事業においては、アウトリーチ事業やワークショップ事業の実施により、通常のコンサートよりも身近にプロの演奏を聞くことができた。ワークショップでは、直接プロの演奏家の指導を受けることができた。公演後のアンケートにより、内容評価や満足度を把握し、事業選定に活用している。地域の文化団体が施設を利用する際は、主催者の要望を聞いて過去の事例や事業の経験を元に助言と、詳細な打ち合わせを行った。利用者アンケートを毎年重複しない個人・団体へ行い、意見や要望を把握して運営に反映させている。		
⑨ユニークペニーの開発を行って、日本の先駆けとなってほしい。積極的チャレンジを。	⑨歴史的建造物や屋外空間等でコンサートやイベント等を実施するユニークペニーについては、今後の検討課題として捉えている。		
⑩アウトリーチを実施する小学校が偏っていないか、公平性の面から知りたい。	⑩佐賀市内の全小学校へは企画書を直接持参して調整を行っている。コロナ禍において、やむを得ず中止した学校などは、翌年に選定したケースはあったが、基本的な考えとして実施後3か年以内で再選定はしないように努めている。また、山間部や奥地の学校へのアプローチも行っている。		
R4年度に高い実績を収めた事項		R5年度に向けた課題	
<ul style="list-style-type: none"> 文化会館自主事業において26,800人の入場者を得る事ができた。目標に対して78%増はコロナ以前の実績と比べても最多であった。 文化庁からは文化会館自主事業に「文化芸術振興費補助金(AFF2)」補助金1,170万円、「子供たちの伝統文化体験事業」補助金150万円の交付を受け、(一財)地域創造からは東与賀文化ホール振興事業に50万円の補助金交付を受ける事が出来た。 オフィシャルパートナーは2社増えて13社となった。 		<ul style="list-style-type: none"> 文化会館、東与賀文化ホールの「稼働率」、「利用料金収入」を目標達成に努める。 東与賀文化ホールの文化振興事業の入場者数について目標達成に努める。 2024国民スポーツ大会・全国障がい者スポーツ大会の会場となるSAGAサンライズパークと連携して準備を進める。 SAGAアリーナ管理者と利用予定の情報共有し施設の効率的な利用に務める。 有料駐車場の安全で円滑な運用に務め、利用者の利便性向上を図る。 	

《 集計表 》 令和4年度実績評価 採点の結果 委員コメント

評価項目		満点	得点計	得点率	判定
1) 施設管理に関すること		180	142	78.9	B
①	必要な保守点検、修繕、管理を行い、施設・設備の機能維持と利用者の安全確保に努めているか。	60	50	83.3	-
②	利用者目線で運営することを意識し、利用しやすい施設となるよう改善を図ることで、利用者の満足度が高いサービスを提供し、稼働率、利用者数を増加させることができたか。	60	46	76.7	-
③	ホームページ、広報誌をはじめ様々なメディアを通し、広く施設及び事業の情報提供を行うことができたか。	60	46	76.7	-
委員コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・保守点検や修繕の実施、地震防災訓練を行うことで、利用者の安全確保に努められた。 ・入場者アンケートの結果から、「公演を知ったきっかけ」が様々なメディアによるものであることがよく分かる。 ・館内設備について、汚損や破損が目立つといった利用者の声をよく聞くので、改善してほしい。 				
2) 文化事業に関すること		240	184	76.7	B
④	文化事業の入場者数を増やし、文化に親しむ市民層の拡大に貢献することができたか。	60	50	83.3	-
⑤	地域の文化サークルの作品展示、文化祭等の地域特性を活かしたイベントの開催支援や、福祉施設などでの芸術文化に触れる機会の提供を通して文化振興を図ることができたか。	60	46	76.7	-
⑥	将来の文化を担う子ども・青少年を育成する、鑑賞・体験事業を実施できたか。	60	44	73.3	-
⑦	地元出身芸術家の起用、市民参加型のイベントの企画、発想の転換による新しい企画を打ち出すこと等により、地域文化の活性化を図ることができたか。	60	44	73.3	-
委員コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・アウトリーチ、体験活動事業に積極的に取り組まれている。特に学校や福祉施設等での件数が今後も増えれば、より多くの子ども、青少年、市民に楽しんでもらえると思う。 ・地元出身の芸術家を起用したイベントや参加型のイベントを実施されており、市民、芸術家双方にとって有益であると思う。 ・入場の際に今後のコンサート等のチラシを見ることで、次の予定が立てられるので良かった。 ・単発的な事業以外にも、ある程度の期間継続して行うプログラム等の開発をお願いしたい。 ・市民参加型の企画の中身と方法を、より充実させてほしい。 ・地域で開催されている文化事業への直接的、間接的な支援の拡大を期待したい。 				
3) 財務に関すること		180	140	77.8	B
⑧	市内企業からの協賛金、国や関連団体等による助成金等を積極的に獲得し、事業に活用することができたか。	60	48	80.0	-
⑨	積極的な情報提供やセールスにより、文化事業の入場者数、稼働率の向上に努め、文化事業収入、利用料金収入を増加することができたか。	60	44	73.3	-
⑩	経費の縮減を図り、経営の効率を高めることができたか。	60	48	80.0	-
委員コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・オフィシャルパートナー企業を2社増やすことができた。今後も増えることを期待したい。 ・電気使用量の管理により節減等の効果が見られており評価できるが、引き続き改善が必要と思われる。 				
◆総合		600	466	77.7	B
◆総合評価					
高い実績を収めた事項			令和5年度の課題		
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中でも積極的に人気のあるイベントが企画され、集客につながった。 ・アウトリーチ等に積極的に取り組まれた。 ・自主事業の入場者数が目標を大きく上回り、施設稼働率も順調に回復している。 ・助成金の活用により、収支の改善が見られる。 ・オフィシャルパートナーの増加 			<ul style="list-style-type: none"> ・金融機関等へのオフィシャルパートナー加入の働きかけができないか。 ・駐車場の取扱いについて、アリーナとの関係調整も含め、来場者の利便性向上への取組を柔軟に行ってほしい。 ・駐車場有料化はやむを得ないが、利用者アンケートによる意見聴取を。 ・招待先やアウトリーチ先に偏りがないう、計画的に実施してほしい。 ・地道にコツコツと少人数でも頑張っている文化活動従事者にも、何らかの支援ができないか検討してほしい。 ・将来にわたり、SAGAアリーナやサンライズパークとの望ましい連携をお願いしたい。 		